

日本の竹ファンクラブ通信

編集・発行 日本竹類総合研究所・特定非営利活動法人日本の竹ファンクラブ

横浜市都筑区中川1-4-1 ハウススクエア横浜4 階 TEL&FAX:045-306-9993 MAIL:office141@takefan.jp URL:http://takefan.jp

現在の会員数 正会員 131名/準会員 10名/賛助会員 個人 20名・団体 2・法人 3 (竹取協力隊 107名)

フロー型からストック型へ転換！

一過性でない独自スタイルで顧客の積み上げを

2018年が明けました。景気回復は6年目に入ったものの深刻な人手不足が懸念され、その対応が急務となつていきます。当法人も高齢化と会員の減少が続いており、先行きが懸念されています。社会共通の出来事とは言え、時代の物差しに合わせてやり過ぎか、次のイノベーションを起こすか瀬戸際の時といえます。設立当初の理念に帰り、再び成長戦略に舵を切り、ストック型の転換で顧客の増加に取り組みたいと思います。

成長戦略の鍵は顧客満足度

NPOの活動を支えるのは「ひと」すなわち『顧客』です。この「人」のストックが経営資源の中で最も重要な要素を占めます。では当法人の大切な顧客は誰でしょうか。それを明確にすることで、それぞれの顧客にあったサービスを提供することが可能になります。顧客満足度を上げ、参加者、入会者、支援者、リピータ数の増加が団体の持続的な成長を約束する鍵となります。当法人の顧客はピラミッド形に次の三つに定義付され、形成されています。

◆第一の顧客はサービスの「受益者」としての顧客です。

竹灯籠まつり、筍掘り、竹の学校、出前講座等の事業に参加費を払って参加する方が該当します。

第一の顧客に対する満足度は想像を超える感動や夢、和み、癒し、喜び、くつろぎ、ふれあい等、日常味わえない異次元の体験がポイントになります。第一の顧客を増やすにはイベントの種類を増やし、間口を広げることです。過去の延長線の繰り返しでは先細りになります。常にディスプレイの発想のイノベーションが必要で

◆第二の顧客はサービスの「提供者」としての顧客です。

会員、スタッフ、竹取協力隊、イベント協力者等、ボランティアで事業の企画・運営に参加する方が該当します。

第二の顧客に対する満足度は、物質的なものだけでなく、達成感、充実感、存在感が味わえる場所づくりが重要です。第二の顧客を増やすには多様な参加者の各々の居場所作りです。更にやりたい「人」がやりたい「こと」ができる自己実現のステージ作りです。そこから守りでないイノ

ベーションが生まれてきます。

◆第三の顧客は「支援者」としての顧客です。企業、団体、自治体、寄付者などが該当します

第三の顧客に対しては社会的な課題解決に対しての動機づけが重要となります。第三の顧客を増やすには竹の社会的課題解決に向けた活動実績と信用が大切です。

◆縮小する日本市場で企業は一回で取引が終わるフロービジネスから継続的に取引が続くストックビジネスに比重を移す所が増えていきます。

ファンクラブもストック型に転換して19年間の経営資源の活用と顧客の増加を図り、ピラミッドを大きくしたいと思えます。

理事長 平石 眞司

竹取協力隊から

小机城址支部

第14回小机竹灯籠祭りは、平成29年4月に小机城が「続日本100名城」に選定され、記念すべき開催の年となり、灯籠祭りへの来場者が例年より多く予想され、隊員一同張り切って作業に入りましたが、結果は台風の通過により順延することなく中止となりました。有志により事前に灯籠用、創作用に加工する竹の間伐対象³²⁰本にテープを巻きつけ、そのかいあって定例活動日には効率よく間伐に入ることができました。

国際プール、事務所からの機材の移動も随時行ない作業体制も万全でしたが、土・日の作業日は雨に見舞われ、雨具を着込み加工場所には雨避けのブルーシートを張り、作業をしました。

灯籠の加工後の各設置場所への運搬、設置も雨が降る中、特に法面の作



活動日 9/10・24・30、10/7・8・14・15・21・22・27・28 延参加者 229名

担当：眞板保昌

業は足場が悪く滑り、苦勞しながら設置しました。しかし開催日前日に台風の直撃予報の元、中止が決定し泣く泣く機材等の撤去に入りました。

平日活動で制作した創作オブジェ灯籠もお披露目することなく撤去となつてしまいました。

加工に携った有志の皆さんお疲れ様でした。

11月の片付け作業日は天気がよく灯籠の撤去、割り、チップ作業に入りました。お客様に披露されることなく割られる灯籠にむなしさを感じながらの作業が現在進行中です。

横浜国際プール支部



下草が元気がいっぱい、9月！全竹林では相当な量があり、急斜面重点の下草刈りで大変でした。この日は竹灯籠の加工機材を、レンタカーで小机へ移動もできました。

秋本番10月は法面に堆積した笹葉をレーキ、熊手、ホーキで掻き卸しました。毎年この繰り返しで足場の安全を確保しています。

また2年ぶりに株式会社阪急阪神エクスプレス21名の参加があり、間伐、枝打ち、午後は作業継続と竹細工に分かれ、竹林パワーを受けての社会貢献活動に充実感たっぷり



活動日 9/16、10/1、11/25 延参加者 49名

担当：根岸秀行

の様子でした。無風快晴の11月、前回残った堆積笹葉の掻き卸し、東屋部の間伐と続きました。また新春1月13日に隣接の山田富士公園「どんと焼き」に使う竹材の腐食程度も上々な状況を確認しました。

来年度4月7日に第11回竹灯籠まつりを迎える竹林は、竹取協力隊が注ぐ愛情、適度な密度管理、春と冬の施肥と続けた好結果が出ています。地下茎が強く蘇り、太く長くたくましい竹がそそり立つようになりました。

こどもの国支部

竹を整備の最適な季節10月になりました。10月14、28日そして11月14日は、総合グラウンド西側真竹林の整備を行いました。

竹の中には稈が日焼けしたように黄色くなった竹がたくさん見受けられ、病気なのかな？とチョット心配しました。しかしよく見れば枯竹で上の方が枯れていました。

11月28日午前中、地元の小学校5年生約90名が、校外学習の一環として竹の間伐に参加しました。生徒は9班に分かれ、竹ファン指導の下に作業を行い、一人一本ずつ伐りました。伐った竹は、竹林から広場に運び出し稈の部分を玉切りにしました。もっと伐りたい生徒もいましたが、予定の時間が来たので終わりとなりました。

各自、工作用に切った竹を持って、笑顔でこども



活動日 10/10・14、11/14・28 延参加者 82名、11/28 生徒約 90名



担当：中元秀幸

の国を後にしていきました。その後、竹ファンで後片付けをし、本日の作業を終了しました。

その後、小学生間伐体験に関する簡単なミーティングを持ち、来年に生かす様にしました。

竹取協力隊から

中井町支部

活動は竹林の中心より南側先端で4、5年前に手掛けていた地区の再整備活動を主に行いました。「竹林整備とみかん狩り」11月23日 参加者23名。今年度より交通手段は公共交通機関、又はマイカーで町役場より半分形竹林まで、徒歩の予定でしたが、6月のイベント(筍狩り)と同様マイカーで来られた参加者のご厚意により車で移動致しました。竹林整備は雨合羽を着ての作業となり、昼食は竹林内で、ブルーシート屋根の下。会員のY様に数日前より献立の立案や食材の加工処理をお願いして、BBQ班に調理準備頂きました。

二堪能頂きました。みかん狩りは武井農園さんで、収穫体験と野菜(大根・長葱・柿・キュウイ)の購入を行い、新鮮な品物が調達出来、雨も午前中には止み、日差しも見えるようになりイベントを遂行する事が出来有難う御座いました。担当:石川正壽



活動日 9/14、10/12、11/9-23、12/14 延参加者 59名

伊豆の国支部

10月9日、11月12日、12月9日と金谷研修センター裏の本立寺の北側で主として真竹の伐採と江川邸南側の孟宗竹林と研修センター前での古竹の粉碎処理に汗を流しました。いずれも神奈川県側から約17名、伊豆側から十数名の方々が汗を流しました。お寺の裏側は20年以上の放置竹林で倒竹も多く作業は難航したが、何とか田んぼに近い場所に通路を確保し今後は粉碎機も導入可能になりました。しかし傾斜地の上側は10mも見



えずに枯竹が倒れ且つ絡みあっている状況で、さすがのイノシシ君にも敬遠されているようで獣道もありません。やはり竹林は春先の筍の管理が大切だと再認識させられました。この一年間新規の竹林整備エリアは本立寺庫理裏の着手がありました。大きな事故もケガ人も出なかった事はひとえに伊豆の国市役所農業商工課の皆様と地元の方々のご協力ご指導によるものと感謝の意を伝えたいとおもいます。担当:五十川健郎



活動日 10/9、11/12、12/9 延参加者 78名

竹取援農隊から

都筑折本

12月2日折本エリア参加者6名、竹取援農隊の精鋭が、寒空の中、間伐整備活動を実施しました。

このエリアは、挿鉢状の地形で、足場も悪く非常に作業に苦勞する現場でした。

2015年に竹取援農隊が開始以来、今では現場上部には「いこいの広場」(私が勝手に命名しました)休憩ベンチが4か所も出来、昼休みには、一時の休息ができる空間になり、更に作業用具を収納する倉庫も設置され、又、山下(挿鉢状の地形の下)までチップパー機が往来できる林道ができ、現場では快適な作業環境が整いました。そして竹林にはまだまだ古竹がたくさんあるのでまだまだ伐採が必要です。

今年是全国的に筍の裏に当たり不作でしたが、これまでの竹林整備のお

かげで、まずまずの収穫がありました。今年は表年と予想されていますので、1月〜3月迄、竹取援農隊の活躍を期待します。4月には筍堀のお客様を多く呼びびして、喜ぶ様子を期待しております。

報告:山田恭平



活動日 9/3、11/4、12/2 延参加者 30名

雨に勝てなかった竹灯籠まつり

小机竹灯籠まつりの準備は9月3日に有志によって間伐対象の竹312本の選定からスタート。

10日から竹取協力隊による間伐作業を開始。

夏休み明けの初作業でもあり竹林に来るのを待ちかねていた20名が参加、24日17名、最終日30日21名で予定数を間伐し終えました。

10月7日21名と8日27名で約3000本、不要部のチップ処理も済み、日吉台中学校美術部も製作を完了しました。

14日は灯籠製作の最終日は雨模様での作業でした。約1400本を製作し予定の4500本を完了しました。



オブジェ制作チームも竹に張り付けた下絵が濡れはがれてしまったため炭火で乾燥させるなど苦労の連続作業となりました。

10月15日、21日は設置で、両日ともに雨の中20名、14名が足元の悪い中での設置でした。

最終日の22日も雨。午前中に3名が中井の竹林にカップ酒用の竹伐採に行き材料を持ち帰りました。19名が滑る斜面で足を踏ん張りながら無事に設置を完了しました。

オブジェ製作チームもブルーシート屋根の下での製作を続けました。今回新しい設定として筍畑の竹の学校のメンバーによるオブジェの前に池

を作り、水面に灯籠が映る優雅な眺めを出現させる試みがありました。

続く雨で池にはかなりの水がたまり水道水を入れる手間が省けました。

台風22号接近する中、曇り空を眺めながら前日準備で資機材を本丸広場へ運搬し、竹灯籠への水入れのためのホースの配管など進める中、台風予報は最悪のコース予想をし、順延しても開催は無

理との苦渋の決定がきました。一転、資機材やホースの配管など全て撤去して無念の解散となり、翌28日午前中に32名で片づけ作業を行いました。曇り空の下でろうそくが浮かぶことなく水を入れるどころか逆に吹きさら

ならないほど雨水を貯めた竹灯籠を、チップ処理のために集積しました。

新しい試みの池では周囲の灯籠に口ウソクを入れて火を灯し、前夜の雨で更に水の増えた池の水

面への映り具合を確認しました。作業を午前中に終了して参加の皆さんへ慰労ということで商店街の中華屋さんで食事をし、

労をねぎらいました。帰る頃に降り始めた雨に妙な気で納得しました。ちなみに順延予定日の29日は朝から強烈な風と雨でした。過去に小机城址での竹灯籠まつりは順延日開催が2日あり、中止になったのは今回が14回の歴史上で初でした。

報告・山根泰裕

日枝小学校の見学

中止となった翌日の10月29日、日枝小学校の先生と4年生児童22名、保護者6名が、撤去前の設置状況を見ておきたいと、昼間の竹灯籠を見学に行きました。

第4回の実習は、竹林の調査と間伐の仕方を学びました。100㎡の方形区を分け、立竹の本数をカウント、竹林面積から適正本数を割り出しました。その後は竹の伐り方、枝の払い方を教えていただき、立竹の伐採を行いました。今回の実習は、今後の竹取協力隊活動で大いに役立つ実習となりました。

案内後に竹灯籠をプレゼントし、土嚢袋がはちきれんばかりに入れて、「重い、重い」と持って帰りました。保護者には、竹のお猪口をプレゼントしたが、おいしく飲んでいただけでしょうか。

報告・榮 千彰

竹林管理コース

第5回の実習は、台風22号と前線の影響で雨の中、竹灯籠まつりの準備として、空堀の上部から「天の川」の竹灯籠設置を行いました。雨で斜面が滑り尻餅を何度かつきながらの設置となりました。

- 講座 No.4 9月10日
実習：竹林の調査・間伐
- 講座 No.5 10月22日
実習：竹林の間伐と灯籠立て
- 講座 No.6 11月11日
実習：竹林間伐・竹穂垣改修
- 講座 NO.7 12月3日
実習：竹林間伐・冬の施肥
実習場所：小机城址市民の森
講師：平石真司・中元秀幸

竹の学校からの報告

設置も天の川上部の灯籠が離れて2本に見えるのもっと近づけて1本に見えるようにと、先生の指導を受け調整しながら何とか「天の川」の形になりました。

その後、竹灯籠作りの実習として、2.5mの竹の節間に鋸と鉋で5か所窓を開け立てる竹灯籠と、竹ぼんぼり（竹を薄く削り、中の灯りが透けて見える灯籠）を教えていただき、作成しました。

第6回の実習は、竹林の整備としてまず枯れた竹と倒竹を伐採し、その後、竹垣改修用の材料、枝穂の確保を行いました。午後から場所を移し、散策路の竹穂垣の傷んだ部分（4.8m）の改修を教わりました。まず午前中用意した竹で親柱を立て、胴縁用の竹を鉋で半割にして、親柱を挟んで横に渡し、針金とシヨ口縄で取り付ける方法を学びました。

胴縁の間に隙間なく竹穂を詰めて立て、最後は切りそろえて終了です。竹垣作りでの基本の結び方男結びを教えていただきましたが、すぐに分からなくなりそうで、出来るようになる迄何度も復習したいと思います。

第7回の実習は、午前



に竹林の調査、午後から冬の施肥を学びました。施肥により裏年の竹も増やして平準化する効果があるということ。今後の竹の出方が楽しみです。

報告：荻原三男

出前講座からの報告

9月20日

横浜国際プール竹林

北山田小学校五年総合学習で見学と実習、先生3名、生徒91名。そうめん流しの竹材づくり。竹の生命、活用について話



竹林に移動。竹伐り生徒選抜に鋸の使用指導、本体用の太い竹と三脚用の細いマタケも伐採。生徒は交代で切った材料を確保。学校でうまく組み立てられるかな？

9月25日南山田小学校

工作室にて

5年生35名、竹トンボが飛ばないと指導依頼があり、生徒達が作った物の手直し応援をしました。

12月24日

北山田地区センター

「ミニ門松づくり」はこれまで城郷小机、中川西の各地区センター主催での講座、現在は地下鉄グリーンライン北山田駅に程近い北山田地区センター事業で行っています。今年には5人が講師として出向きました。毎回主婦の方が圧倒的に多く男性はなぜか少数派！です。



依田さんが故郷長野まで行き、ワラで編んだコモなどその他の竹や材料も全部自然物です。今年には横浜市公報新聞等を見て申し込んだ16名が楽しくつくりました。

報告：根岸秀行

10月12日 東山田小学校

6年二組が7グループ

自主発想で各種の竹細工に挑戦。校長先生も見学に来室。竹鉄砲を径3cm位の紙筒に浸した新聞紙を詰めている、これは違う！竹灯籠、水笛、他にスリットはスリットを4本入れたいとの事で、入れ方を手助け。生徒自身で考え、悪戦苦闘しながら物をつくる、大変微笑ましい姿です。

報告：松村栄一

TAKEFAN NEWS

新入会員紹介 活動報告

中林博志（横浜市神奈川区）、山崎千代春（横浜市港北区）（下線は竹取協力隊入隊者）

※桐蔭横浜大学サービスマーケティング実習 受入れ3名 9/10～11/12 延18名

※横浜市環境創造局環境活動支援センター

安全管理研修：9/10（1名）、森づくり活動の為の作業研修：12/2（1名）市民事業交流会：12/16（1名）

※理事会開催 9月2日 7名、12月23日 9名

予定表

日程変更有り

※**学校管**：竹の学校「竹林管理コース」 ※**協力隊**：竹取協力隊の定例活動 ※**援農隊**：竹取援農隊の定例活動
 ※**イベント**：詳細はチラシ又はホームページをご覧ください

1月7日(日) 協力隊	変更 横浜国際プール 竹林の間伐・竹垣作り 10:00～15:00
1月9日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00～15:00
1月11日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐と冬の施肥 10:00～15:00
1月13日(土) 協力隊	変更 北山田どんど焼き協力 (横浜国際プール隣接) 8:30～13:30
1月14日(日) 協力隊	小机城址市民の森 四ツ目垣改修(AM) 10:00～12:00
1月21日(日) 援農隊	都筑折本 竹林の整備と施肥 10:00～15:00
1月23日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐と竹垣作り 10:00～15:00
1月24日(水) 援農隊	変更 都筑折本 間伐竹の処理(チップパー) 10:00～15:00
1月25日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐と竹垣作り 10:00～15:00
1月26日(金) 援農隊	変更 都筑折本 間伐竹の処理(チップパー) 10:00～15:00
1月27日(土) 協力隊	小机城址市民の森 10:00～15:00 竹灯笼チップ化と四ツ目垣改修
2月3日(土) 協力隊	変更 こどもの国 竹林の間伐 10:00～15:00
2月4日(日) 協力隊	横浜国際プール 竹林の間伐 10:00～15:00
2月8日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00～15:00
2月13日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00～15:00
2月15日(木) 援農隊	変更 都筑折本 間伐とチップ化 10:00～15:00

2月17日(土) 協力隊 学校管	小机城址市民の森 10:00～15:00 間伐竹チップ化と竹穂垣改修 実習:竹林の間伐・四ツ目垣改修
2月18日(日) 協力隊	伊豆の国市 萑山 竹林間伐・地元交流会 10:00～15:00
2月22日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00～15:00
2月27日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の整備 10:00～15:00
3月4日(日) 協力隊 学校管	小机城址市民の森 10:00～15:00 竹林の間伐とチップパー処理 実習:筍の保護柵と竹札作り(AM) 講義:竹の活用、修了式(PM)
3月8日(木) 協力隊	中井町 竹林の整備 10:00～15:00
3月11日(日) 協力隊	横浜国際プール 竹林整備と間伐 10:00～15:00
3月13日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00～15:00
3月17日(土) 協力隊	横浜国際プール 竹林の間伐 10:00～15:00
3月18日(日) 協力隊	横浜国際プール 竹林の間伐 10:00～15:00
3月22日(木) 協力隊	中井町 竹林の間伐 10:00～15:00
3月24日(土) 協力隊	横浜国際プール 竹灯笼作り 10:00～15:00
3月25日(日) 協力隊	横浜国際プール 竹灯笼作り 10:00～15:00
3月27日(火) 協力隊	こどもの国 竹林の間伐 10:00～15:00
3月31日(土) 協力隊	横浜国際プール 竹灯笼設置 10:00～15:00

※4月7日(土)第11回横浜国際プール竹灯笼まつり



■竹灯笼まつりで、竹粉配合の抗菌樹脂食器(植物性プラスチック)を販売する予定だった。港北区にある工場の製品で自ら竹の伐採をして、自社マシーンで竹粉をつくって配合した家庭用品を商品化している ■プラスチック革命を天然有機物で進めているが、日本の竹ファンクラブの企画開発品の出現が待たれる ■横浜市南区六ツ川こども植物園で「マダケで点灯実験」があった。エジソンはフィラメント材を世界中で多額の費用をかけて集め京都府八幡市の竹に行きついた ■炭化して長時間通電が可能な白熱電球ができたが120年経ったいま竹で灯す実験に、子供の目はどんな輝きがあったことか。

竹に関する情報がありましたら、どんなことでも結構です。下記宛にご連絡をお願いいたします。

E-MAIL:office141@takefan.jp URL:http://takefan.jp TEL&FAX 045-306-9993